



発行：救いの光教団
編集：神成編集室
東京都世田谷区北沢
(☎155-0031) 2-22-10
電話 代表 03(3413)0123
http://sukui.jp
毎月1回1日発行
購読料 1部80円
(会員の購読料は会費に含む)

2024
No.625
9月号

— 言霊 —

光明に 住する人の言霊は

いと快きひびきありけり

如何ならむ 濁りし世とて清まなむ

誠の言霊響き亘らば

言ふべきと 言はでよき事ある世なり

道にある者心せよゆめ

御光筆 大言霊 (だいげんれい)



引首印 光明 落款 自観書
落款印 岡懋之印 東山莊主
昭和二十年代後半

◎教団方針

信徒よ速やかに目覚めよ、
それは光を受け、邪を捨て、光を授け、
正に生きる事である

◎方針のみちしるべ

- (一) みつめなおそう明主様の心
- (二) つらぬきとおそう明主様の心
- (三) 教団綱領を尊び実践する
- (四) 信仰継承は家族と家庭円満から

神言霊

〈お伺い〉

言霊は神なりの意味

【神言霊】

言葉の働く世界を言霊界と言う。神は宇宙の大元霊
という言葉は非常な働きをするものである。人間の場
合は言葉と言ひ、言霊は神の場合に言う、『聖書』に「は
じめにコトバあり、万物之によつて造らる」と書いて
あるにみて、言葉はいかに重要であるかが判る。一切
万事は言葉でどうにもなる。善も悪も創造も破壊も天
国も地獄も自由自在である。しかし言葉で良い物を作
らなくてはいけない。そうすれば言霊は神なりを如実
に現すことになる。

(昭和二十五年二月二十日)

するようなことを言っていると白い光になって出る。で
すから、多くの人が神様を讃えるような言葉をたくさ
ん言えば、曇りがとれて光のほうが多くなるわけであ
ります。そして天災地変がなくなる。これが判ったら
恐ろしいくらいであります。

（昭和十年八月十一日）

【神言霊】

音楽もそれを弾く人の想念によつて言霊のような働
きをなすものでしょうか。

【神言霊】

勿論そうである。器楽を通じて指先からその人の霊
が音律へ入ってゆく。笛など息から入る。故に音楽で
も人格者や、信仰のある人の感じよい。ラジオでも
その人の霊がラジオを通じて働く。しゃべる声なども
大いに影響する。ある地点にいて私がしゃべる言葉は
全世界にひびく。どこでもとは言えぬ、その位置によ
り違う。霊界には所々に高天原があり、都会もある。
熱海、箱根も高天原である。そこでしゃべることは日
本中へひびく。

(昭和二十四年十一月二十日)

人間の曇りなどにより、人間のあらゆる事件などは
根本はそれによつて起る。非常に曇ったときには戦争
などがある。その点がはっきり判れば、もう自分はき
れいになるよりしようがない。
始終悪いことをしゃべったり、嫌いなことをしゃべ
ると、言葉が一種の曇りになる。以前、見た人の話に
よると悪口言ったりなどするときは、煤みたいな鼠色
の雲となって出る。神様の話しをしたり、神様を讃美

七月慰霊祭

令和六年七月十三日、お盆の入りに合わせて七月慰霊祭が執り行われた。

お盆は全ての霊界の祖霊が子孫のもとに來られる時であり、この日も懇ろなる供養の御祭りが滞りなく執り行われた。祭典後には輝霊光納齋殿への納齋式が執り行われ、親族をはじめ縁のあ

会長挨拶(要旨)

霊界は皆さんもご存知のように天国、中有界(八衢ともいいます)、地獄と大きく三段階にわかれています。

日頃、お仏壇に來ることのできる祖霊様は八衢以上の霊界におられる祖霊様で、その下の地獄にいる祖霊様は來ることが出来ません。しかし、お盆に限っては地獄の祖霊様も仏壇に來ることが出来るのでお盆は主に地獄の祖霊様を慰めてあげるようになります。地獄におられる祖霊様もこのことをご存知で、待つておりますので皆さんのごちそうを召しあがって再び霊界に戻られます。

今月の神成でもお分かりのように三途の川を渡り霊界生活を迎える際には閻魔の序にて生前の行いに対する審問があり、相応の賞罰が決まり、霊界の行き先が決まるわけですが、大多数は中有界・八衢に行き、大体三十年を限



7月慰霊祭の様子



慰霊祭後に執り行われた輝霊光納齋殿納齋式の様子

る信徒が参列して厳かに執り行われた。また、祭典後には境顧問より光守様の御様子について報告があり、今日までの感謝と、光守様に訪れた奇蹟、自身の御神縁にまつわるエピソードが語られた。

(詳細は以下の紙面に掲載) 度として修行をされて天国、地獄へと行き先が決まるとあります。

そうであるならば、現世の私たち同様に霊界でも何かしらの御用をされたり講話を聴いたりして修行を積まれていくのではないかと考えます。もしかすると、和やかに霊界生活をされている祖霊様、修行に耐えている祖霊様もおられることを思いますと、祖霊供養は、祖霊様を神のように崇めるといふよりも霊界での修行を支えるという意味合いの方が大きいように思います。

また、仏壇に來て、私たちの様子をみて、子孫や家族が楽しく幸せな生活をしている姿をみる事でその喜びが霊界での修行の励みにもつながるかもしれません。そういう思いを持つと、私たちの日々の生活も変わってくるのではないのでしょうか。

お盆はすべての霊界の祖霊様が集まりますので、ぜひそのような姿をみていただけるように、供養のおもてなしをさせていただきます。

特別寄稿

光守様におとずれた奇蹟と自身の御神縁の奥深さを体験

教団顧問 境 和之

令和六年二月二十九日、光守様がお倒れになられて以来、皆様から想念の浄霊、お祈り、お見舞いのことば、手紙、そして私に対する励ましのことがと、深く御礼申し上げます。ありがとうございました。今日(七月十日)で百三十六日目、実は四回ほど、心が折れてしまいそうな局面がありました。終末医療施設への転院も考えさせられ、胃ろうの選択も迫られました。七月二十六日の退院が決まり、七日の東京教会浄霊体験日の終了参拝後に十名程の信徒さんにはその報告をさせていただきました。現在の退院時の光守様の容体がどうであれ「施設には入らず自宅で見て欲しい」との以前からの光守様との約束が果たせるめどがついたこと、安堵感から、それは私にとつて嬉しい報告となりました。その三日後の七月十日、病院に面会に行つたときの出来事を役員会のグループラインに報告したものを読み上げます。

……おはようございます。光守様が昨日覚醒しました。夕刻、面会に行きますと、「会い

たかった」と言うのです。今までのこと(入院五ヶ月間)の記憶が無かつたかのような話しぶりで、単語だった片言の会話も文章となり、善言讃詞もところどころ復唱し、三回の拍手も自分から打ちました。

二人の看護師も(別々に)私が來ていることがわかると、「今日急にしゃべりだしました」と報告に來ました。

「二十六日に退院して家に帰り、体重を取り戻し、リハビリして教会に参拝しましょう」と言うといつもの口調で「行く」と力強く返事をしました。

あまりにも激変でかえって『最後の?』と思ひ素直に喜べないくらいでした。溜まりに溜まった話しもできました。ありがとうございました。……七月十日朝、光守様は突然『覚醒』したので。まるで(今日が最後の日)と思わせるほどの激変ぶりです。

しゃべりにしゃべり、私もいまままで溜まりに溜まった話しをすることができました。百三十三日ぶりの会話でした。

私が面會に來ていることを知つた二人の看護師がやつて來て、「すごいんですよ、朝から急にしゃべりだしました。」

「お風呂では元氣よく、熱いだがそこが痒い」とうるさくてしょうがありませんでした。」と笑顔の報告で

顔に血の氣が戻り、ときたま以前の鋭い眼光も覗かせ、それまで不自由であった自分の手で歯磨きもしたそうです。

今思えば思い当たる事があります。光守様に聴かせる為、六月十九日の朝、本部御神前で祭主と三人の役員に天津祝詞、善言讃詞、神歌を奉唱して頂き、スマホに録音してその日から面會のたびに二回ずつ光守様の耳元で聞かせました。

皆さん「エクソシスト」という今から五十年程前のオカルト映画を覚えていらつしやりますか? 適切ではありませんが、十字架と呪文?で牧師が人間に取り憑いた悪霊をとりはらうという内容でした。光守様に天津祝詞、善言讃詞を聞かせるとまさにその映画を彷彿する

が如く、ベッドの上でもがき暴れるのです。古参のベテラン信徒さんにはこれに似た話しを何度か聞いたことがありますが、失礼な話し肩唾ものとして聞き流してしまいました。しかし、目の前に現実となつていくこの状況にただ戸惑うばかりでした。

五回目位からその状況も収まり穏やかに、聞かせると手でリズムを取つたり、口元を動かしてみたり、そして二十二日目の七月十日『覚醒』の朝を迎えました。

その様子を役員に送つたラインを読み上げます。

……皆様の天津祝詞、善言讃詞のおかげです。先月十九日から面會のたびに毎回二回耳元で聞かせ続けました。

これが「また教会に行きたい」という大きな活力・生きる目標になつた事でしょう。

このことを広く信徒さんにお伝え下さい。天津祝詞、善言讃詞の力は大きいですよ、きつと皆さんが思う以上に肉体的にも精神的にも弱つた信徒さんにとつては特に。

ありがとうございました。感謝します。……

きつと天津祝詞、善言讃詞には長年の信徒さんの様々な思い、魂の語り、一つの生命体となつていくのでしよう。

光守様のお伴で何度か人生の最期を迎えた信徒さんとの面會に何う機会がありました。

明主様の写真を枕元に、光守様が浄霊のお取次と同時に天津祝詞、善言讃詞を唱える光景が蘇ります。

信徒さんは小さな一粒の涙を流し

幸福感に満ちたその顔は忘れられぬ私の宝物となっています。

光守様はこう言います 「明主様が迎えて下さるからね。安心してね。」

『覚醒』の日の前日、自宅を整理していますと明主様の日記が出てきました。昭和四年から十九年の几帳面で大胆で繊細な内容でした。

(あつ近い内に良いことがあるのでは? 実は商談中の須玉の成約のことかな? と思つていました)

その矢先の光守様の『覚醒』でした。そのあまりの嬉しさから、いままで誰にも話していなかつた内緒にしていた話しを光守様に話しました。

明主様の話です。

自分の意思とは関係なく、四年前突然教団に現れた私は、胡散臭いやつ、教団を乗っ取るのではないかと、ある宗教団体施設に出入りしているのを見た。光守様は人を見る目がなく、すぐ騙されてしまうから心配」と言う声も私にも届いていました。(もつと生々しい内容でした)

そんなこともあり、私自身神様事の業界など不釣り合いであることは分かつていましたので、光守様には「教団とは決して関わりませぬよ」と常々予防線を張っていました。だから余計にこの話をしますとめんどくさいことになると、自分自身のなかで封印し、なかば記憶からもれていくような状態でした。

六月二十日、コロナに罹りました。初めてみる三十九度台の熱。そんな中、忘れかけていた明主様絡みの二つの話を思い出しました。その中の一つの話を聞いて下さい。(誰にも話さず光守様をお送りしたあと静へ

くかに教団を去っていくつもりでした。

七年程前、箱根仙石原のゴルフ場へある方の運転手として行ったときの話です。昼食後、車で休んでいますと目の前に着物を着た老人が立っていました。その老人は私に言いました。「下北沢の〇〇〇〇を助けてくれ」

「〇〇〇〇の女性の名前は忘れませんが、当時下北沢には担当しているお客さんが何名かいましたので、そのうちの一人だろうか?と、勿論その時は驚きましたが時間とともに忘れさりました。その何ヶ月後か?、世田谷区の外来生物の調査依頼で初めて大沼邸を訪れました。二階の和室に行きビックリ。箱根で会った老人の写りが飾ってあるのです。その方が世界救世教の教祖岡田茂吉であることを後に知りました。

私が光守様の助けになったかどうか分かりませんが、そのご褒美としてでしょうか?リンパ節にはりついた甲状腺癌の危機から救って頂きました。昨年の入信時『神成』に挨拶文を掲載して頂きましたが、折角助かった命 その命の少しでも教団に捧げたい」との思いはここから来ています。

教団、光守様と関わるようになり、統計学上説明のつかない事案、いわゆる皆さんのよく使う「奇蹟」を数多く体現するようになりました。明主様はいつも近くいらつしやいます。間違いなく教団を見守って下さっています。光守様は何ごともなければ二十六日に退院し、自宅での体重筋力の回復、リハビリに励みます。私は今、光守様を通して介護リハビリを学び経験し、その糧が将来、高齢化が進む信徒さんの何らかの役にたてばと考えています。明主様の御加護の元、皆で力を寄せ合います。ありがとうございます。

感謝奉告 塩竈教会より

浅水屋 和子

この度、我が家に三つの御守護を頂きましたこと、御奉告させていただきます。

一つ目は、息子のことです。息子が入院中にコロナにかかりました。医者話では、両肺が肺炎にかかり、重くなれば最悪のことも考えてほしいとの事でした。御神前で御守護御願いをし、想念の御浄霊をさせて頂きました。二日経って、ライオンをしたら返事が返ってきました。ヨーグルトが冷たくておいしいこと。ああ生きていた、良かったと神様にお礼申し上げました。

二つ目は娘のことです。娘は小さい時から体が弱く、何回も生死をさまよいました。そのたびに御守護を頂き元気に働かせて頂いております。

自分で免疫を作れない病気をもち、幾度となくつらい手術に耐えて働いている姿を見るとよく頑張っていると思います。痛みがあれば、すぐに手をかざして楽になります。本当にありがとうございます。

最後は、愛犬白太(しろた)のことです。夜中に呼吸が荒くなり元気がなく、声をかけても横になったまま。もう十五歳になるのでいつかは霊界に行くかと覚悟はしています。明主様にお願いで御浄霊をさせて頂きました。朝になると、だいぶ息も落

ち着き、卵粥をつくり食べさせると、思いのほかたべてくれました。白太は娘が大事に、大事に育ててくれました。仕事でいない時に亡くなったらどんなに悲しむかと思うと本当に御守護を頂きました。

明主様、三つの御守護を頂き感謝申し上げます。ありがとうございます。

光守様いつも深い御祈りと御見守りを頂き心より感謝いたします。

《コメント》
浅水屋和子さんは、山形教会長、浅水屋先生の奥さまで、私が塩竈教会に専従するまでは、浅水屋先生が、山形教会、長岡教会に出張のとき、塩竈教会で御奉仕して頂いておりました。私たち信者が行きますと、いつでも笑顔で迎えて頂き、またコロナ以前は祈願祭、感謝祭あとの直会でおいしい食事を作っていたきました。信者さんのことを第一に考え、今でも和子さんを訪ねてくる信者、未信者さんがおられます。この様に信者さんから頼りにされているからこそ、この大浄化を無事に乗り越えさせて頂けたのです。

《コメント》
浅水屋和子さんは、山形教会長、浅水屋先生の奥さまで、私が塩竈教会に専従するまでは、浅水屋先生が、山形教会、長岡教会に出張のとき、塩竈教会で御奉仕して頂いておりました。私たち信者が行きますと、いつでも笑顔で迎えて頂き、またコロナ以前は祈願祭、感謝祭あとの直会でおいしい食事を作っていたきました。信者さんのことを第一に考え、今でも和子さんを訪ねてくる信者、未信者さんがおられます。この様に信者さんから頼りにされているからこそ、この大浄化を無事に乗り越えさせて頂けたのです。

木皿 謙

心不全と車椅子
私は今年八月が来ると、満九十九歳になります。いつも平和な顔をしているので何の問題もなく過ごして来ていると思うのですが、そうでもなかったと言う話をこれからしたいと思います。大きな病、手術を何度も乗り越えながら来たのです。

二〇一〇年、腰のあたりに腫瘍が出来て、結構な大手術を受けましたが、その後何年か経ってあの大手術の前、病院側から「術後五年生存率三〇%」って告げられていたそうです。わりと最近子供たちにそのことを知らされて、ビックリしたところでした。九十歳を目前にした今、聞くも涙、語るも涙の物語です。

次に二〇二二年(令和四年)秋に、少し動いても心臓がバクバク、息はハーハーとなり家の二階に登るのも大変でした。近くの掛かり付け医師に行ってみても、「何でもありません。順調です。」としか返事はなく色々説明してやっと「心電図を取ってみますか?」ってことになりました。出てきたグラフを見て来て、「これは少しおかしい。オーブン病院に紹介状を書きます」ってことになりオーブン病院へ行

ったところ、即入院となりました。これは、凄いや御守護なのですが、こう治ってくるとそれが当たり前のような気がしていたのです。横柄と言うか生意気と言うか、自身であきれてしまいます。

思ってもいなかった心不全のことでした。

それは二週間の入院生活で退院。それでも二階に上がっただけで、ハーハー喋ることも出来ない状態が普通生活に戻ることが出来るようになりました。

その翌年つまり去年二〇二三年六月頃のこと、突然腰が痛くなり、歩くことが出来なくなりました。車椅子をレンタルして、家の中を車椅子で動く状態になりました。その頃、遊び癖だけは旺盛で、うみの杜水族館に行ってみたくなり、子供らに車椅子を押してもらいながら行ってきました。それが暑い暑い七月の事でした。八月のお盆の頃は、杖を突きながら、お墓参りがやると出来る様になり、九月の秋風が吹くころには何とか普通の生活に戻ることが出来ました。十月二十日整形外科の予定の検診日、行ってみたところ痛みもなくなり

「一体どうなっているんですか?」って聞かれました。そんなことこつちが聞きたいです。「これからどうしましょうか?」って聞かれたので、「これで卒業させてください。」ってことになりました。借りていた車椅子も返しました。車椅子のレンタル業者さんからは「この年で車椅子を使い始めて、返されるとは...」ってあきられました。

これは、凄いや御守護なのですが、こう治ってくるとそれが当たり前のような気がしていたのです。横柄と言うか生意気と言うか、自身であきれてしまいます。

これは、凄いや御守護なのですが、こう治ってくるとそれが当たり前のような気がしていたのです。横柄と言うか生意気と言うか、自身であきれてしまいます。

この前の光導所長会で、『奇蹟について』の神言霊を賜った時ピツと心に響くことがあり、これは皆様方にもぜひ報告しなきゃならぬと思います、今日この場に立つてご奉告する段取りになった次第です。

大神様、明主様数々の御守護本当にありがとうございます。

光守様、今後もしいろいろと勉強させて頂いていただきます。



《コメント》

木皿謙さんは、光導実践委員長を務めており、五月と十月の光導実践会に積極的に参加しております。また二〇二三年前までは、教会内で書道教室も行っておりました。毎年、教団方針が出ますと、私が御願ひし、いつも快く大きな半紙に書いていただいております。このように塩竈教会では大変重要な方ですので、大神様、明主様からの御守護も大きく頂けるものと思

